

2020年1月31日

東京電力ホールディングス(株)

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所における要員強化策について

1月16日に開催された原子力規制委員会殿と弊社経営層による意見交換会において、弊社からご説明させて頂いた「要員と組織の充実」に関する事項のうち、要員に関する事項の詳細について 以下の通りご説明させていただきます。

①福島第一原子力発電所(1F)への要員シフトについて

今般の組織改編では、プロジェクト遂行に適した体制を構築することを目的に、1F内にプログラム/プロジェクト組織を設置することとしており、これに伴い、これまで廃炉推進カンパニー本社(廃炉C本社)と1Fに分散していた要員について、1Fを中心とした要員配置へと見直すこととしています。

具体的には、廃炉C本社(東京側)に勤務する70~90名の要員を1F(福島側)での勤務としてシフトする予定であり、現場/現物重視の考えの下、1Fにおいて一体となった業務運営を図ってまいります。

②福島第一原子力発電所における要員強化(純増)について

2019年度は、新入社員38名に加え、43名¹の社外の専門人財を確保し、水処理運転やプール燃料対策、燃料デブリ分析等に配置²してまいりました。なお、定年を含む退職者数は毎年40~50名で推移しており、総数では30~40名の純増となる見込みです。

2020年度については、2019年度相当以上の増員を考慮しており、品質・安全、放射線管理・分析、防災安全・火災防護等、現場を中心に必要な箇所に配置していく予定です。

以上

¹ 増員43名には2020年3月までの入社予定者9名を含む

² 新入社員38名はすべて1F配置済み、増員43名のうち35名は1Fに配置予定